

「わたしを通してでなければ・・・」とはどういう意味でしょうか

聖書をつぶさに研究してゆくうちにイエス・キリストは「崇拝」の対象とすべきであるということが分かってきました。

(次の資料を参照「ギリシャ語聖書中の「崇拝」の語句リスト」)(及び、別資料「改めて最も基本的な質問ーイエスキリストとはどんな方ですか」をご覧ください)

そうすると次に解決しなければならないのは、「唯一まことの神」とみ子イエスキリストをどのように捕らえるのが聖書的かということです。

み使いであれ、人間であれ、組織であれ、エホバ以外を崇拝するのは偶像崇拝になるのではないのでしょうか。

間違いなくそうです。と言うのがエホバの証人の答えでしょう。

しかし、この「偶像崇拝」という問題は。それほど単純なものではなさそうだということが分かってきました。

このことを聖句から考慮する前に、次の事をまずあなた自身で考えてみてください。

「崇拝の取り決め(何がふさわしく、何が禁じられるべきか)を設けるのは誰がどのように決めるものなのか」

当然ですが、どのような崇拝が正しいかは、その崇拝方式を認めて受け入れるか否かを決められる「真の神」に決定権があるということです。

ということは、崇拝する側が「えっ、これでもいいんですか」というように感じるものであったとしても、崇拝される側、つまり真の神がOKであれば、それこそが正しい崇拝方式だということです。

すこし回りくどい言い方になりましたが、このことを踏まえて、次の聖句を読んでみて下さい。

(歴代第二 6:19 - 21) …私の神エホバよ、この僕の祈りと、恵みを求める願いを顧みて、懇願の叫びと、この僕がみ前にささげております祈りをお聴きください。

あなたの目が昼も夜もこの家に、すなわちあなたがみ名をそこに置くであろうと言われた場所に向かって開かれ、あなたの僕がこの場所に向かって祈る祈りをお聴きになりますように。また、あなたの僕とあなたの民イスラエルがこの場所に向かって祈るとき、その懇願をお聴きください…

(歴代第二 6:32 - 33) …遠い地から実際にやって来る異国の人のためにも、また実際、彼らがやって来て、この家に向かって祈るなら、そのとき、あなたが天から、すなわちあなたの住まわれる定まった場所からお聴きになり、すべてその異国の人があなたに呼び求めるところにしたがって行なってください。…

(歴代第二 6:38 - 39) …あなたの選ばれた都市、私があるのみ名のために建てた家の方向に向かって、彼らが本当に祈る場合、あなたも天から、すなわちあなたの住まわれる定まった場所から、彼らの祈りと、恵みを求めるその願いを聞き、彼らのために裁きを施行し、あなたに対して罪をおかしたあなたの民をお許してください。

(歴代第二 7:1) …さて、ソロモンが祈り終えるや、火が天から下って来て、焼燔の捧げ物と犠牲を焼きつくし、エホバの栄光が家に満ちた。

ソロモンが神殿を建てた後、エホバに対して祈り求めたものであり、繰り返し、この神殿に向かって、その方角に向かってと述べています。そして、天からの火は、その祈りが聞き届けられたあかしでした。

仮にあなたがこのときに生きていて、日本に住んでいたとしたら、あなたが祈るべき方向はどちらですか？

イスラエルに住んでいて、神殿に向かって祈るのは偶像崇拝にならないのでしょうか？

あなたはどのように考えますか？

もちろん神殿そのものを崇拝するわけではありませんが、崇拝の形式に関して「神殿」は大きな意味を持つことになりました。

神殿が見えなくても、遙か遠い地においても、神殿を意識して神殿の方角を向いて祈るときにエホバはその祈りを確かに聴くと約束してくださったということです。

当然、この事を知っていながら、敢えて違う方向を向いた祈りは聴かれたかどうか定かではありません。恐らく、敢えて無視するなら、その神が是認された取り決めを軽視しているわけですから聞かれることはなかったらうと思われます。

その祈りも同じように聴かれるなら、「神殿を向いて」ということが全く無意味になってしまうからです。

このソロモンの祈りとそれに応えられた真の神の意図がどういうものか分かりますか？

それまでよく知られていたように、あらゆる人工物に対する崇拝行為を禁じられていたのです。

\*\*\* 塔 93 1/15 20-21 ページ 6-7 節 なぜ偶像礼拝に警戒すべきですか \*\*\*

「あなたは自分のために、上は天にあるもの、下は地にあるもの、また地の下の水の中にあるものに似せたいかなる彫刻像や形も作ってはならない。それに身をかがめてはならず、さそわれてそれに仕えてもならない。あなたの神であるわたしエホバは全き専心を要求する神であり、・・・」一出エジプト記 20:4 - 6。

エホバがあらゆる偶像礼拝に反対しておられるのはなぜでしょうか。先に引用した十戒の2番目のおきてから分かりますとおり、それはおもに、神が全き専心を要求される方だからです。「わたしはエホバである。それがわたしの名である。わたしはわたしの栄光をほかのだれにも与えず、わたしの賛美を彫像に与えることもしない」。(イザヤ 42:8)

いかに、自分は偶像を崇拝しているのではなく、偶像をとおして、神を崇拝しているのだと言い張っても、通用するものではありませんでした。

ですから、人の手によって作られたものに向かって礼拝行為をすること（偶像崇拝となる行為）が神殿に限り、それもエルサレムの神殿にかぎって許されたことが分かります。

その後の歴史の中でエルサレム以外の場所の高きところに対しての「真の神」に対する崇拝に対して、「真の神」が嫌悪の情を隠さなかったことは歴史的な事実となっています。

その記録は明らかに崇拝の取り決めに対する権利が誰にあるかを如実に表しています。

つまりこの当時の「真の神」に受け入れられる崇拝はエルサレムの神殿を通して、天におられる「真の神」に祈りを聞いていただくというものでした。

神殿の建立は「崇拝の取り決め」を変化させる出来事だったということが出来ます。

さて、このことと、この論文のテーマとなっている、「キリストを崇拝する」ということとどんな関係があるのかと思われることでしょう。

(ヨハネ 2:20 - 21) …「この神殿は四十六年もかけて建てられたのに、それを三日で立てるといふのか」。しかし、イエスはご自分の体の神殿について語っておられたのであった。

贖いの取り決めを含め、「神殿」が表していたものはキリストに他なりません。

ということは、つまりこういう事です。

ソロモンの時代に神殿を通して「真の神」に近づくことが行われていたのと同じように現在はイエスキリストという「神殿」を通して「真の神」に近づくことが定め置かれているのです。

(ヨハネ 14:6) …「わたしは道であり、真理であり、命です。わたしを通してでなければ、だれひとり父のもとに来ることはありません。

イエスキリストは不完全にしかなしえなかったエルサレムの神殿の贖罪の行為を完全な形で成し遂げられました。その結果としてご自身の血による贖いにより完全な形で天から神殿の機能を果たしておられます。

そして現在も「真の神」がご自身で確立された崇拝の方式をそのまま適応しておられます。すなわち、「崇拝」「祈り」は神に直接ではなく霊的な神殿であるイエスキリストを通すという取り決めとなっているということです。

私たちが唯一、真の神以外に、礼拝行為を許されているのはイエスキリストという神殿だけであるという事実。これは聖書の中で明白です。

あなたがクリスチャンを自認するのであれば、これは絶対認めなければならない重要な教義として認識しなければならないでしょう。

このキリストに関する、真の神の「崇拜の方式」が理解できるなら、マタイ14：33節でイエスの弟子たちが彼に対して崇拜行為をしたという記述は何も問題視する必要はないのです。彼らは当然のことはただけであるということになります。

本来「崇拜」という意味のギリシャ語を無理にねじ曲げて、「敬意をささげた」などと歪曲して翻訳する必要などどこにも無いはずです。

この聖書の真理を認めたからといって、いわゆる「三位一体」論とは何の関わりもありません。

もし、このことによってキリストが神であるという論議がでてくるなら、では、神殿は神なのか?!とということになってくるでしょう。

言うまでも無く、神殿は決して神ではありません。しかし、その向かって祈るという、祈りの対象であること明らかです。

ダニエルの捧げた祈りの記述を思い起こして下さい。

(ダニエル 6:10) …しかしダニエルは、その書面に署名が行なわれたことを知ると、すぐに自分の家の中に入った。その屋上の間の窓は彼のためにエルサレムに向けて開かれており、日に三度、彼はひざまずいて祈り、自分の神の前に賛美をささげるのであった。それまでいつもそのように行なってきたのである。

結論として、まとめますと、聖書の記述から明らかなのは、み使いも、弟子たちも、イエスを「崇拜」προσκυνησαν (ギ語) しています。

(ヨハネ 14:6) …「わたしは道であり、真理であり、命です。わたしを通してでなければ、だれひとり父のもとに来ることはありません。

「わたしを通してでなければ・・・」この聖句を改めて正しい理解と認識を持って実践してゆくことが真のクリスチャンとして歩んでゆく上で、極めて重要なことと言えるのではないのでしょうか。

ギリシャ語聖書中に使用されている語句 「崇拜」

**προσεκύνησαν** (プロセクネーサン)

の使用されている聖句全リスト

**προσεκύνησαν (prosekunēsan)**

<< [προσεκύνει προσεκύνησεν](#) >>

Strong's Number 4352 (προσκυνέω: worship)

赤字は新世界訳です

対象が神やサタン、獣などの場合、本来の意味の「崇拜」と訳していますが、対象がイエス・キリストの時だけ「敬意を捧げる」と訳出しています。

Matthew 2:11 καὶ ἐλθόντες εἰς τὴν οἰκίαν εἶδον τὸ παιδίον μετὰ Μαρίας τῆς μητρὸς αὐτοῦ, καὶ πεσόντες **προσεκύνησαν αὐτῷ** καὶ ἀνοίξαντες τοὺς θησαυροὺς αὐτῶν προσήνεγκαν αὐτῷ δῶρα χρυσὸν καὶ λίβανον καὶ σμύρναν. 敬意を捧げた

They came into the house and saw the young child with Mary, his mother, and they fell down and worshiped him. Opening their treasures, they offered to him gifts: gold, frankincense, and myrrh.

Matthew 14:33 οἱ δὲ ἐν τῷ πλοίῳ **προσεκύνησαν** αὐτῷ λέγοντες· ἀληθῶς θεοῦ υἱὸς εἶ.

敬意を捧げた

Those who were in the boat came and worshiped him, saying, "You are truly the Son of God!"

Matthew 28:9 καὶ ἰδοὺ Ἰησοῦς ὑπήντησεν αὐταῖς λέγων· χαίrete. αἱ δὲ προσελθοῦσαι ἐκράτησαν αὐτοῦ τοὺς πόδας καὶ **προσεκύνησαν** αὐτῷ.

敬意を捧げた

As they went to tell his disciples, behold, Jesus met them, saying, "Rejoice!" They came and took hold of his feet, and worshiped him.

Matthew 28:17 καὶ ἰδόντες αὐτὸν **προσεκύνησαν** οἱ δὲ ἐδίστασαν.

敬意を捧げた

When they saw him, they bowed down to him, but some doubted.

John 4:20 οἱ πατέρες ἡμῶν ἐν τῷ ὄρει τοῦτῳ **προσεκύνησαν** καὶ ὑμεῖς λέγετε ὅτι ἐν Ἱεροσολύμοις ἐστὶν ὁ τόπος ὅπου προσκυνεῖν δεῖ. 崇拜しました

Our fathers worshiped in this mountain, and you Jews say that in Jerusalem is the place where people ought to worship."

Revelation 5:14 Καὶ τὰ τέσσαρα ζῶα ἔλεγον, ἀμήν. καὶ οἱ πρεσβύτεροι ἔπεσαν καὶ **προσεκύνησαν** 崇拜した

The four living creatures said, "Amen!" The elders fell down and worshiped.

Revelation 7:11 Καὶ πάντες οἱ ἄγγελοι εἰστήκεισαν κύκλῳ τοῦ θρόνου καὶ τῶν πρεσβυτέρων καὶ τῶν τεσσάρων ζώων καὶ ἔπεσαν ἐνώπιον τοῦ θρόνου ἐπὶ τὰ πρόσωπα αὐτῶν καὶ **προσεκύνησαν** τῷ θεῷ 崇拜して

All the angels were standing around the throne, the elders, and the four living creatures; and they fell on their faces before his throne, and worshiped God,

Revelation 11:16 καὶ οἱ εἴκοσι τέσσαρες πρεσβύτεροι οἱ ἐνώπιον τοῦ θεοῦ καθήμενοι ἐπὶ τοὺς θρόνους αὐτῶν ἔπεσαν ἐπὶ τὰ πρόσωπα αὐτῶν καὶ **προσεκύνησαν τῷ θεῷ**  
崇拜して

The twenty-four elders, who sit on their thrones before God's throne, fell on their faces and worshiped God,

Revelation 13:4 καὶ **προσεκύνησαν** τῷ δράκοντι, ὅτι ἔδωκεν τὴν ἐξουσίαν τῷ θηρίῳ καὶ **προσεκύνησαν τῷ θηρίῳ λέγοντες**, τίς ὅμοιος τῷ θηρίῳ καὶ τίς δύναται πολεμῆσαι μετ' αὐτοῦ;  
崇拜して

They worshiped the dragon, because he gave his authority to the beast, and they worshiped the beast, saying, "Who is like the beast? Who is able to make war with him?"

Revelation 13:4 καὶ **προσεκύνησαν** τῷ δράκοντι, ὅτι ἔδωκεν τὴν ἐξουσίαν τῷ θηρίῳ καὶ **προσεκύνησαν τῷ θηρίῳ λέγοντες**, τίς ὅμοιος τῷ θηρίῳ καὶ τίς δύναται πολεμῆσαι μετ' αὐτοῦ;  
崇拜し

They worshiped the dragon, because he gave his authority to the beast, and they worshiped the beast, saying, "Who is like the beast? Who is able to make war with him?"

Revelation 19:4 καὶ ἔπεσαν οἱ πρεσβύτεροι οἱ εἴκοσι τέσσαρες καὶ τὰ τέσσαρα ζῶα καὶ **προσεκύνησαν τῷ θεῷ τῷ καθημένῳ ἐπὶ τῷ θρόνῳ λέγοντες**, ἀμήν ἀλληλουϊά,  
崇拜して

The twenty-four elders and the four living creatures fell down and worshiped God who sits on the throne, saying, "Amen! Hallelujah!"

Revelation 20:4 Καὶ εἶδον θρόνους καὶ ἐκάθισαν ἐπ' αὐτούς καὶ κρίμα ἐδόθη αὐτοῖς καὶ τὰς ψυχὰς τῶν πεπελεκισμένων διὰ τὴν μαρτυρίαν Ἰησοῦ καὶ διὰ τὸν λόγον τοῦ θεοῦ καὶ οἵτινες οὐ **προσεκύνησαν τὸ θηρίον** οὐδὲ τὴν εἰκόνα αὐτοῦ καὶ οὐκ ἔλαβον τὸ χάραγμα ἐπὶ τὸ μέτωπον καὶ ἐπὶ τὴν χεῖρα αὐτῶν καὶ ἔζησαν καὶ ἐβασίλευσαν μετὰ τοῦ Χριστοῦ χίλια ἔτη.  
崇拜せず

Isaw thrones, and theysatonthem, and judgmentwasgiven tothem.Isaw the soulsof those whohad beenbeheadedfor the testimonyofJesus,and for theword of God, and such as didn't worship the

---

この語の変化形である *προσκυνησάτωσαν* (proskunēsatosan) が使われている  
 ヘブライ 1 : 6 のキリストについての預言の部分も「み使いたちは彼に敬意を捧げよ」と訳しています。

「敬意」と「崇拜」は決して同義語ではありません。  
 まして聖書の翻訳となると極めて重大な問題です。偶像崇拜や、神の是認か不興かということと直接関係してくるからです。完全な誤訳と言わねばなりません。  
 明らかに新世界訳は三位一体の教理を否定しやすくするために聖書を自分たちの教理に合わせて訳していることは間違いないでしょう。このように聖書そのものに手心を加えるのは、「気が利いているようで間が抜けている」という典型的な例で、正に「素人の浅知恵」とはこのことです。